

雑草イネの効果的な除草体系

福島県農業総合センター 作物園芸部稲作科

1 部門名

水稲－水稲－雑草防除

2 担当者

渡邊和弘・新妻和敏

3 要旨

会津地方を中心に、雑草イネの発生が確認されており、問題となっている。雑草イネとは、栽培イネ以外のイネで栽培イネとの競合や収穫物への種子の混入等により減収や品質低下などの雑草害をもたらすイネである。そこで効果のある雑草イネ除草体系を検討した。雑草イネの発生は、水稲除草剤を体系処理をすることにより抑えられたが、一発処理では十分に抑えることができなかった。

- (1) 移植後34日の雑草イネの発生量は、無防除が54本/a、体系処理が2本/a、一発処理が13本/aとなった(図1)。
- (2) 雑草イネは、土壌深度0～1cmで発生割合が多かった(図2)。
- (3) 1回目除草剤を植代時に*プレチラクロール(エリジャン)乳剤、2回目除草剤を移植時に*ペントキサゾン(メテオ)フロアブル、3回目除草剤を移植後21日にシハロホップブチル・*シメリン・ベンフレセート・MCPB(ザーベックスD)粒剤を散布することにより雑草イネの発生は抑えられた(図1、図3)。
- (4) 効果があるとされる一発除草剤(*オキサジクロメホン・テフリルトリオン(エーワン)粒剤)の1回の処理では雑草イネを十分に抑えることができなかった(図1)。

(*: 雑草イネに効果のある成分)

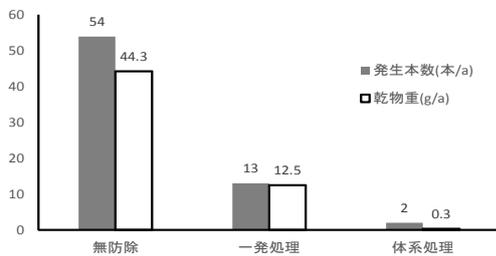


図1 雑草イネの発生量(1町)

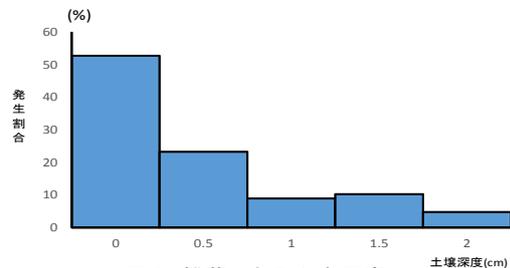


図2 雑草イネの発生深度

移植後日数	-8日(代かき)	0日(移植)	21日	34日(残草調査)
無処理		A		54(本/a)
一発処理		B	?	13(本/a)
体系処理	C	D	E	2(本/a)

A: イマズスルフロン・エトベンザニト・ダイムロン粒剤: 1(kg/10a) B: オキサジクロメホン・テフリルトリオン粒剤: 1(kg/10a) C: プレチラクロール乳剤: 300ml/10a D: ペントキサゾフロアブル: 500ml/10a E: シハロホップブチル・シメリン・ベンフレセート・MCPB: 1(kg/10a)
 ────: 想定される抑制期間 ? : 除草効果が不明

図3 抑制期間と残草量

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30年度
- (2) 研究課題名 緊急課題解決試験 水稲の雑草イネの防除技術対策の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 公益社団法人日本植物調節剤研究協会 技術情報 雑草イネ有効剤として実用化可能と判定された除草剤
- (2) 雑草イネ総合防除対策マニュアル 平成25年4月(長野県雑草イネ対策チーム編)